

日本書紀傳 三十卷 二十止

百三十三

和書
一〇五二二號

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156 (131)	
函號	特85	1

内一三六八三號



南政直
内庫

神代文
内庫

と見えたる此神語より上小古語と云ふこと一して別事

小ハ非ずある有けり此小此謂之神語也と有ハ右

の伏如く此件ハ神等一の固房の密事一の世小漏傳ハ此ハ所以小依

て殊小神語とハ云習ハ一ハの者ありけり記傳小

の沼河北賣命を曾給へる事此ハ五首を惣て云

あり若て神代ハ事を云ハ皆神語あり小此ハ限り

バ殊小神語と古より云傳ハ一ハ可ハ朝倉宮殿小

天語歌と云ハ有也と云ハ諸思ふ小右ハ如く神

代ハ事を云ハ皆神語と云ハ大祓詞をハ出雲神壽

詞をハ然云ハ類各其一を限りて云稱ハ唯小古傳

を云ハ非才然ハ此ハ神語ハ大國主神ハ御妻向

ハ一種を云ハ古事記ハ凡て古傳を載ル書あり

小此一段ハ別ハ神語と一ハ傳ハ古語を採入

○日本書紀傳三十

○千十六

二六八三號

迎年賀多理と訓て下小歌字を加へて文を成せざる
この例の杜撰ふり上件例より合ざる私事あり
けり云ふ
不足ありむ

故此大國主神娶坐胸形奥津宮神多紀理毘賣命生子阿遲
二字 鉏高日子根神次妹高比賣命亦名下光比賣命此之阿
以音 遲鉏高日子根神者今謂迦毛大御神者也

此多紀理毘賣命と申奉る瑞珠盟約章小謂少
る田心姫命御事小御在坐須勢理毘賣命御
分形と申奉る可なり然るハ上五百六十六注一
奉る如く地神本紀と此と同く大己貴神先娶坐
宗像奥津島神田心姫命上生一男一女兒味鉏高彦根神

妹下照姫命と所見たり然るハ山城國愛宕郡賀茂別
雷神社ハ味耜高彥根神御在坐其賀茂御祖
神社ハ其御母神ハあむ渡る世給へるを五依姫命と
七日サ大神と宗像姫神と傳ハ由上六百六十六
小己注一奉る如く然るハ葛野郡栢尾神社二座
の大山咋神ハ其別雷神と同体ハ渡る世給ハ胸形中
都大神と申す古事記小次市寸島比賣命者坐胸形
形之中津宮と有る是より元久の古文書ハ山城國栢
尾社ハ富社者鴨御祖社之御同体云々と有る此を
以て賀茂御祖神と其市杵島姫命を主と爲て齋奉る

御事を察すむ可き者あり又此に依て其味耜高彥根
神の御祖を市杵島姫命の係り傳はれし由を曉る可
し又古事記に大國主神亦娶神屋楯比賣命生子事代
主神と有る合て地神本紀に次娶坐邊津宮神高津姫
神生一男一女児都味齒八重事代主神味高照光姫大
神命と有て此に別り如くふれども上五百六小注に
か如く事代主神と申す味耜高彥根神の和魂に
て別神に御在り坐す又高照光姫大神命に右の高
比賣命の御事あるを混り然るに傳はれし由のこゝ
りけり此端津姫命を味耜高彥根神の御祖神と

申べし状あり有りけり借上文に須勢理毘賣命の御事
をいし嫡妻といし嫡后とい有る小若此に其とを別
神と成せしむる此三女神をいし大國主神の御妃
とい爲て其嫡后の次小立せ給へりとい爲む抑其三女
神といし天照太神と素戔鳴尊と御誓約の御事御在
り坐る其御中より生出させ給ひて是止事無き大
神小渡りせ給へるを其須勢理毘賣命の下小立せ給
ふ可きふり本より非る事あり且其に此とを別
小爲る時大國主神と須勢理毘賣命とい異母兄弟
に成り然るに上ある其夫神の御歌に伊刀古夜能

伊毛能美許等と有る從弟族之妹命と云事小其生
坐る日神の御方小就て申させ給へりとの南の山に此
小依て須勢理毘賣命ハ一と三女神小正しく渡り
せ給へる確證ある者あり但此ハ正書小大己貴神を
小從へる小古事記小謂ゆる六世孫の説ハ予が取
ぶ所あり其妻ハ由小傳十四卷小辨ハ置たり
小ハ今云限小非ず雖も又神宮雜例集小雄略天皇
其心して見る可き者あり
御夢 皇太神の教覺給へる高天原 坐我見志麻岐宮
處 鎮理坐 天 後經年向吾一所耳坐 禮 御饌安不聞食
吾高天原 在時素戔嗚尊乃帶十握劍 索取三段打
折互所生三女神 葦原中國宇佐島降居道中奉助天

孫而為天孫所祭 止 詔之神云々乃齋奉御饌都神止由
居乃神云々有る神名帳考証丹後國與謝郡須代
神社の下の引る大同本記小素戔嗚尊所生三女神奉
助天孫而為天孫所祭止詔之神丹波國與佐乃此名
真名丹坐須勢理姬と所見たりハ正しく件ハ三女神
をハ須勢理毘賣命と申奉る證是より古史徴小右
の雜例集を引たり小詔之神を一本小詔之須勢理姬
乃齋奉 禮 神と有る云々餘小相叶ひ愛たり小過て
疑無小ハ非れども若其信ありハ打合て是く愛た
り事小ハ有ゆる如此く一神と定て置て猶其三女

神の名義小就て試る小田心姫命又多紀理毘賣命と
申奉るハ傳十五二百小注一奉るハ如く此ハ誥姫
命と申す義多り次小狹依毘賣命此御名御紀小ハ無
くして地神本紀小ハ佐依姫命小作上項注十小注せり少播磨風土記小
讚容容郡所以云讚容者大神妹妹二柱各競占国之時妹
玉津日女命云々尔大神勅云汝妹者五月夜殖哉即去
祀處号五月夜部神名贖用都比賣命云々と有る大神
妹妹二柱と云ハ大同主神と嫡后須勢理毘賣命の御
事を申し玉津日女命ハ玉依姫命と申す小等々贖
用都比賣命ハ右の狹依毘賣命を贖用比賣命と申

つゝむを右の五月夜殖哉の御事小依て贖用都比賣
命と号させ給へり小ハ此之小通ふ都ハ處ハ義多
事程小注々ハ如く備右の狹依ハ進動スツキの意多り由
傳十五二百十小己小注せり次小湍津姫命地神本紀
小ハ高津姫神と作り其將高出りて右の誥の同義の
言ふハ小ハ右の三神の御名共小健く進りハ多由
多ハ夫照太神と素戔嗚尊二柱神の御誓の御時小
其御誥生御事し神性と成て三柱共小女神小ハ御在
し坐るハ健く進りハ多雄偉ハ神小渡り世給
ふ考所以此小在る事共多り又須勢理毘賣命と申奉る

同ト意ハテ天孫降臨章火國降命開下小火國降此
 云能須素理ト有テ其第三一書小火進命ホスミト作古
 事記ハ火須勢理命ト有テ須素理又須々美又須勢
 理共小同言あるを以テ此ハ進姫命ノ義ある事を曉
 可ク者ありク
右ハ田心を誥ハ扶依を進動ハ端
津を高出ハ須勢理を進ハ説を成
 事ハ天孫降臨章第五一書ハ吾田鹿葦津姫命ノ御
 子生坐一を天神御子疑給ハけハ是以吾田鹿葦津
 姫益恨作無戸室入居其内誓之曰吾所振若非天神之
 胤者必亡是若天神之胤者無所害則放火焚室其火
 初明時蹊誥出見自言吾是天神之子名火明命云々次
 火盛時蹊誥出見亦言吾是天神之子名火進命云々次
 火炎衰時蹊誥出見亦言吾是天神之子名火折命云々
 次遷火熱時蹊誥出見亦言吾是天神之子名彦火火出
 見尊云々ト有テ其傳十五卷二百一十一下ハ注
 見ハ如クハ其此ハ共小御誓あるハ故ハ其意味

の相通ハ 備右小引ノ雜例集ハ三女神をハ大同
 を以テリ 本記ハ須勢理昆賣命一神ト爲テ事ハ已ハ注
 如ク此大國主神其三柱神を各婚ハ世給ハ趣あり
 小其生坐ハ御子ト申ハ唯味耜高彥根神ト下照
 姫命ト二柱ハミありハ小其二柱神共小田心姫命
 小ハ扶依昆賣命小ハ端津姫命小ハ各御祖ト見之御
 子ト云事ハ有テハ何水小ハ且少テ御祖ハ
 少御子ハ事ハ其須勢理昆賣命一神ト坐坐
 御子ハ田心姫命小ハ扶依昆賣命小ハ端津姫命
 小ハ係テ傳ハハ其本別神トハ御在ハ坐坐

を以てあり但其始三柱に分けて生坐一女神の須
執理毘賣命一神と成る世給ふ事ハ實小疑を容て
所多のと雖も傳十八九十四注之が如く瑞珠盟約章
第三一書小即以日神所生三女神者使降居于葦原中
国之宇佐島矣今在北海道中號曰道主貴此筑紫水沼
君等奈神是也と有て宇佐ふてハ此三女神を合せて
玉依姬命と齋奉り又筑紫水沼ふてハ豊比咩命と称
して此小一神として祀り多ありハ猶道主賣命と申
奉るハ大國主神と相對ハ世禰在坐て共小天下を
主領給ふ意ありけり此小一神ふて上千十二下小謂也

る宇那賀氣理互至今鎮坐也と有る是ふて神名式小
出雲郡杵築大社名神同社大神太后神社と有る當り
て即須執理毘賣命ふて渡る世給ふ御事申すハ更ふ
少若て此出雲風土記を見り神門郡滑狭郷郡家南西
八里須佐能素命御子和加須世理比賣命坐之尔時所
造天下大神命娶而通坐時彼社之前有磐石其上甚滑
也即詔滑磐石哉詔故云南佐神龜三年改字滑狭と有て其御事
ハ詳小傳ハ之を味邦高彦根神の御祖の御事を書す
すハ唯仁多郡三津郷の所小大神大穴持命御子阿
邊須担高日子命御須髮八握于生晝夜哭坐之辞不通

尔時祖命云々有て彼多紀理昆賣命の御名を載す
 ず其上三女神と思ふ故事ハ一ハ小無く又神名式
 小然る御名を見えさせ給ハざるハ當昔彼國小傳
 ぶ所即其三女神ハ須勢理昆賣命小渡らせ給へ
 故なるゆ且大國主神の嫡后と御在し坐り項懸り
 鎮坐る此女神ハ一柱ハ小珍子の御在し坐り
 子理無く又書典小傳ハ程小教すてくれ給
 へざる御子あるを生給ふ可き小將非りけり如何
 様小見奉りてハ三女神ハ須勢理昆賣命ハ同神小
 了渡らせ給ふ御事實小決り者小ふむ有けり但其人
 大國主

神小嫁継せ給ふ爲小各三神別ハ合せ給ふ可小
 非りけり然物爲させ給へる小有けり其御本
 体を申奉り時ハ本ナリ三柱ハ了渡らせ給ふ御事申
 すも更なり其大國主神ハ一本一柱ハ然
 小其和魂大物主神其荒魂大國魂神ハ三柱小分水
 せ御在し坐り相共小御力を合せ給へるも尊
 子神等ハ御上りてハ例例小例者あり
 已小注せり○多紀理昆賣命傳十五 二百小注一奉此
 り○阿遲鉏高日子根神御紀小ハ天孫降臨章小初
 て其御名を擧りれたる小古事記ハ地神本紀ハ小ハ
 右小注ハ如く慥小其御祖命ハ御事をさへ小書た
 水たるハ甚々尊る御賜物小ある有けり此御名義ハ
 上五百七小已小注一奉此ハ今云限小非ずむ有
 十七

けれバ此小其御降誕の御事を先注し申す可し故
其御生所、決く出雲國ありけむ記傳引れたる
其風土記小神内郡高岸郷郡家東北二里所造天下大
神御子阿孫須担高日子命甚晝夜哭坐仍其處高屋
造之坐之即建高橋而登降養奉故云高岸タカノヘ神龜三年と
有を以見々小此過ふて御生坐けりふのけり然るり
此御子の晝夜と云す泣哭に坐けりか爲小高屋を造
り高橋を建て登降の爲つゝ養奉る世給へり云ハ
其泣哭を止奉る世給へむとて其産殿より出奉
りて此高屋小近奉る世給へり見由此を以て其

産殿の間合此々甚くも遠るる事と思ふ可し
然して其並小八野郷郡家正北三里二百一十歩須佐
能袁命御子八野若日女命坐之尔時所造天下大神大
穴持命將娶給而令造屋給故云八野と見えたる此八
野若日女命の傳四百五十五二十九寸六二百七十
七上二百七十八注カ如く即三女神を一柱小合
せ奉れり御名小右小謂ゆる須執理昆賣命の御事
小渡り世給へりハ滑狭郷より外小此所小御在
坐けりありけり但右小將娶給而有り始て婚ハ小
御在し坐けり状ありとも要字の造給ふ事と見り時

ハ是能通由るを其屋を令造給ひ一妻屋即其産殿と
爲り此所より生出させ給ひけむりと思ひ然る高
家東北二里と有る其八郎郷も郡家正北三里二百一
十歩の有るを以思ふ高岸郷より西北に當りて
僅の隔あるを以然るむりといふ云ふ因云右の高岸
郷の文は故云高岸と有る誤字有る其下の神龜
三年改字高岸と有る其改めなりといふ所無し似
かり且上の高屋造而即建高橋と有るは故云高屋
ありて高橋と又云仁多郡三津郷郡家西南十五里
大神大穴持命御子阿遲須積高日子命御須髮八握子
生晝夜哭坐之辞不通尔時祖命御子乘船而率巡八十
島宇良加志給鞠猶不止哭之大神夢願給告御子之哭
由夢尔願坐則夜夢見坐之御子之辞通則寤向給尔時

御津申尔時何處然云向給即御祖前立去於坐而石川
度坂上至留申是處也尔時其津水沼於而御身沐浴坐
故因造神言事奏参向朝廷時其水沼出而用初也依此
今産婦被村稻不食若有食者所生子不云也故云三津
神龜三年即有正倉と見えたる此の御須髮八握子生
改字三澤
に有るハ漸く長くせ給へり然るけり右の高岸
郷の故事より後ある事云々更なる此の祖命と七
御祖と有る右七十注る如く即須勢理昆賣命
の御事小あむ渡りせ給へりけり御子乘船而率巡八
十島と云ハ彼高岸郷に高屋を造り高橋を建て登降

余官知御津社と見
之御津濱廣三十八
歩有餘也

少爲つゝ養奉る世給へれども猶突止ざりけり水は更
小船に乗せ奉りて慰め聞え給へり玉垣宮段本
年智和氣御子の御言語爲り世給へり所は故率遊
其御子の状者在於尾張之相津二俣搦作二俣小舟而
持上來以浮傳之市師也輕也率遊其御子と有る能似
たり事あり富音出雲國の形勢ハ一島小一其間ハ
出雲の四郡ハ一別小海中あり一島小一其間ハ
潮海を隔たりハ其内海の方（一）ハ御船
を浮べて率て巡る世御在り坐りて一同記搦登郡御
津社と申す有り又御津島（生）御津濱廣三十八歩ハ

此故事に依り

武小留り多御津神社是なり此す

島根郡

と云有る其味非高彦根神小由有る地名ありを以て
も知る水なり字良加志ハ明宮段小故是須り許理釀
大御酒以獻於是天皇字羅宜此所獻之大御酒而見
え若摺宮段小ハ於大御酒字良宜而大御寢坐也と有
る字羅宜ハ情舉ありを記傳廿三（四）ハ字羅宜ハ自
然るを云ふ字良加志ハ今字羅宜を云ふ此ハ哭を止
了字羅宜給ふ可く爲るあり契沖云世ハ幼兒を氏字
良加須と云ふ此字良加志ハ手を加して字良加須
小四ハ有る其状を想像し奉る可くあり（因云右ハ
本智和氣
御子の御事ハ此神ハ御事ハ能似て其堂仁天皇二十
三年御紀ハ譽言津別王是生年既三十鬢鬚ハ掬猶泣

公而崇神天皇十八
 年御紀天皇皇初建
 城命活見尊曰於等
 二子慈愛之齊不智
 爲爾名宜厚朕以
 夢之之皇子於其
 被命淨沐而所保
 名得夢之云云有
 事小狀小至于一く神
 祇の御語を夢を以
 て之奉る事古の法
 所見より若て

如見常不言云々に見えたる若くは是神の御心ふる
 よりと思ふ由有り次千三十一丁天御梶日女命の傳
 小尾張風土記を大神夢願給云々の上小大神大穴持
 引て云を見心一大神夢願給云々の上小大神大穴持
 命と有る小て此の御祖命と共に小夢の御誨を天神
 小願奉るせ給へる云々夜夢見坐之御子之辭通ハ
 其天神の感應の御在り坐て御夢の告を此小得
 せ給へる云々あり爾時御津申と有ハ初ての御言語小
 御津と申給へる小て此ハ夢小願奉るせ給ひける神
 の御誨言云々事ハ爾時其津水沼於而御身沐浴坐と
 有る其解除を成す可しとある事云々更云り若て何
 處然云向給へる其御津の地をいも然る幼稚子御子

の知給ふ可き小非めけれハ其を即神の御心と爲て
 向奉るせ給ふ御意味云々可一即御祖前立去於坐の
 於ハ往り誤あるり此御祖と申すハ其御子を率巡給
 へる御母神小坐ある小大神と添給ひて共と見也石川度
 至留ハ度石川至留坂上と有る意云り申是處ハ上小爾
 時御津申と聞えし處ハ此と見せ奉給へる云々其
 津水沼於而り於ハ往り誤あるり又ハ於其津水沼而
 の義あるり備其津と云ハ其坂上ある處をいも津と
 ハ云べくず其坂上小至留りて御津と聞えたり
 津ハ其あるりて指し奉りて往古ハ此邊迄ハ潮

海ありしありむる其ハ同郡戀山郡家正南十三里古
老傳云和尔戀河伊村生神玉日女命而上到云々有
て海に鯨の上到此事有り又大原郡海潮郷の文に
北方出雲海潮押上漂御祖之神此海潮至と有て仁多
大原の二郡共今其甚く奥なりたる境ありて海岸
と云許ふに非ざるも其海に余出づ船津と云程の
事ハ決りて有ける者ハ所見たり御身沐浴坐ハ謂ふ
る禊祓の事を爲させ給へるあり此ハ御子の辞通ハ
し坐る事を書さざると雖も上文に依り其由ハ知れり
然るに何に依り然る事を行給ひしと爲む故

国造神吉事奏参向朝廷時其水沼出而用初也と有ハ
傳十五二百注るが如く神賀詞に若水沼向能弥若
敷尔御若敷坐と有る是ハ其味高彦根神の美事
例を述り其沼ハ禊祓に且其水を用ひ初る事を云ふ
に依り今産婦彼村稻不食者有食者所生子不云也
ハ其故事の有り地あり其ハ肖りたるあり故云
三津とハ其御津と申させ給へるが名と成水とを神
龜三年改字三澤と云ハ古ハ御津と云べし地あり
し今ハ涸て水沼と云ハ成水と云ハ津と云ハ似著ハ
しと云ざるハ故ハ三澤と改ハるあり可ハ即式澤

社神名式小仁多郡三澤神社と有る是れ味耜高彥
根神の御霊を始て祭奉りて所見なり三代實
錄小貞觀十三年十一月十日 授出雲國從五位上
御澤神正五位下と有り 又大同類聚方九卷小美佐枝
季之家方と云事見小朝熊社神鏡汝汰文小概廣
房勅文永保三年閏六月十五日出雲國司言上云鎮宇
水澤明神御正体失御坐者同月廿日宣旨云且仰司
祈請重經言上と有り其社ハ三澤郷三澤村小立止御
在生 ○味耜高彥根神の后神の御事ハ出雲風
土記小指縫郡神名樋山郡家東北六里一百六十歩高
一百廿丈五尺周寸一里一百八十歩寛西有石神高一
丈許側有小石神百餘許古老傳云阿遲須杵高日子命

之后天御梶日女命來坐多久村産給多伎都比古命尔
時教詔汝命之御社之向位欲生此處宜也所謂石神者
即是多伎都比古命之御魂當旱乞雨時必令零也と有
る此天御梶日女命と聞口々傳廿二百七十上五百
二七十注七十カ如ク天手カ雄袖カ御女カ下次カ引カ土
佐風土記カ謂カ天津羽々神カ御事カ渡カ世給カ
カ少儲梶ハ古語拾遺カ穀木種植カ以作白和幣カ有
て下カ是木綿也と注カ水カ義カ又多久國カ云
カ枳國カ云事カ下其穀カ種植給カ地カ少カ有
カ心其枳カ穀カ一カ事カ豊後風土記カ常取枳皮

以造木綿と有る宝基本記小以穀本作白和幣名号木
綿と有るを合せて曉と可し又土佐風土記小土左郡有
朝倉郷郷中有社神名天津羽羽神天石帆別命今天石
内別神子也と有る其御父同く御在り坐せハ決く
同神とて渡り世給へるあり小羽羽ハ傳十九三百小
注るが如く古語拾遺長白羽神下小今俗衣服謂之
白羽此縁也と云事と有るハ其意を御名を可し
又朝倉と申す社号ハ上五百七小考注せる状にて出
雲国小起りて大和国城上郡小移り其後小高鴨神を
土佐国小遷奉りし時小此神小移り世給へるあり

小因水多あり但出雲国小朝倉の地名無しと雖も
古小ハ麻を木綿と云し右の多久村の地名小
依小麻を種殖て麻谷マヤと号けし所有しるむ事ハ
彼長谷朝倉の地小出雲村の右有るを思合す可し者
よりく又風土記小多久川源出郡家東北神名槌山
西南流入于海と有る多久村と多久谷村との間を流
る由あり阿豆麻夜山郡家西北五十四十歩と有
る此て其多久谷の内小在ると云ハ阿豆麻夜ハ例の
四阿の事小非ずと吾妻屋山と云事ハ味那高
彦根神ハ其神事向爲せ給へり神迹ありと非

十々同記小謂由多久社ハ即此天御梶日女命小
御在すめり神名式小謂由了揃道郡多久神社是るり
但羽羽小ハ今一考有て上五百九十二下小注カ
如く古語拾遺ハ古語大蛇謂之羽羽と有る其義とも
爲べし然れども天御梶日女命と同神ハ説ハ違ハ
が可し斯れハ天御梶日女命と申すハ其行事を以
て孫奉り天津羽羽神と申すハ又尾張風土記小丹羽
其御形体ハ因ハる御名ふり又尾張風土記小丹羽
郡吾漫郷卷向珠城宮御宇天皇品津別皇子生七歳而
不語傍同郡下無能言之乃後皇后夢有神告白吾多具
國之神名曰阿麻乃孫加都比女吾未得祝若爲吾克祝
人皇子能言亦是壽考帝卜入覓神者日置部等建國君
卜食即遣覓神時建國君到美濃國花鹿山攀賢樹枝造

漫誓曰吾漫落處必有此神漫云落於此間乃識有神因
堅社由社名里後人託言阿豆良里巴と有る多具國之
神ハ上小云出雲國楯縫郡多久村多久神社ハ御事
多り阿麻乃孫加都比女と申すハ天甕津姫ハ義多
ハ天御梶日女命ハ御名と言甚相違ハ美濃國花鹿山
ハ神名式小謂カ大野郡花長神社花長下神社是る
ハ其吾漫郷小建た社ハ尾張國丹羽郡阿豆良神社
是る右千二十小注カ如く味耜高彥根神ハ
其始御言語ハ御事を得ハ爲サ世給ハガ少けハ
就て甚ハ奇異ハ御事ハ御在ハ坐ハ由ハ右小謂由

日本國神名帳小正二
花長大神ハ有ハ西條
巨神階カ多可ハ
愛根ハ花長神社名礼
村七社ハ明花長神
社ハ祭儀田多大神
ハ味耜高彥根神
ハ亦名カハ少カ説
小命ハ其下神社ハ
セカハ其下神ハ爲
ハ也

日子命之信天御梶日
女命來坐多久村云
不証有を以定む可

天甕津姬命ハ一也天御梶日女命ハ一也其後神小
て渡り世給へる小彼譽津別命の御言語一御在
坐ぶりつゝを即其神の御心あり由右小引る風土記
の文小依り明るけり然る小天智天皇七年御紀小其
續編我山田石川麻呂大臣女遠智娘の生奉水る御子
三柱御在り坐る中小其三曰建皇子啞不能言と見え
たり此御子ハ己小齋明天皇御紀小四年五月皇孫建
五八歳薨と有り此小引合ふ可事ハ非りけり
其七年五月乙未朔癸卯天皇遷居于朝倉橘廣庭宮
是時新除朝倉社木而作此宮之故神怒壞亦見申由是

大舍人及諸近侍病死者衆と有り秋七月甲午朔丁巳
天皇崩于朝倉宮と有り抑此朝倉社ハ一也土佐風土
記小謂ゆる天津羽羽神の御事ハ一也即其味耜高彥
根神の后天御梶日女命ハ一也御在り坐あり其御崇
を得て此小齋明天皇の崩御と世給ひけり其より
先小皇孫建王の啞して八歳して薨と世給へる事ハ
を思へば其社木を新除ハ世給へるの事ハ
崩御ハハ有てけりハ已くこの此神の御崇を得
せ給ふ可事故有ふこと有りけり但外小思合す可事
事ハ有ふハ非りとも余小奇しく思ひ申任小云り

但此ハ甚ト可畏キ申事ハテ甚ク包チテ心リク爲
事アリトモ然ルコト思得ツ事ヲ云フコトモ如
何カト小此ナリ後予カ思フ許ル事ハ人ト争
下クカ思得ル事ハ勿クガク此説ハ惡ク事ハ幸
小答む人カ有ルモ小ハ又如此ク僻ク事ハ又
小書サ者多ク其頃ハ異ク世中ハ一在リルハ亦然
不神カ御罰カ得サセ給フ事トハ口カ究メテ云
マ下ク状アリク借右小引ク土佐風土記ト土佐郡朝倉
郷郷中有社神名天津羽羽神天石帆列命今天石内列
神子也ト有天津羽羽神ハ一ト神名式ト謂ル土
佐郡朝倉神社カ御事小御在坐テ都佐坐神社大カ
高賀茂社ト申シテ其味高彦根神ト並御在坐サ
御事申サ小更カ然ル小此神カ御名カ切テ阿波咩

神トモ阿波神トモ申奉ル御事アリ此小就テ上 五百
二小注カ如ク續後紀小養和七年九月癸酉朔伊豆 七十
国言賀茂郡有造作島大名上津島此島坐阿波神是三
島大社本后也又坐物忌奈乃命前社即前社御子神也略仍召集諸祝刀
祢等ト求其崇云阿波神者三島大社本后五子相生而
後后授鸕冠位我本后未預其色因茲我殊示怪異將預
冠位略ト見エタカ此三島大社ハ一ト事代主神トシ
御在坐カ小其本后ト申サ時カ事代主神カ本后
小御在坐テ味高彦根神カ后神トハ別神アリカ
ト思フト一應カ然ル事アリトモ天孫降臨章ト謂カ

天國玉神ハハ右天石帆別命ハ御在ハ坐テ天
津羽羽神ハ天稚彦ハ爲ル父神ハ坐ス其天津羽
羽神ハ味耜高彥根神ハ后ト成給ヒ其妹下照姬命ハ
天稚彦神ハ妻ト成給ヒ故ニ其天稚彦ハ亡ケ
時ハ味耜高彥根神ハ御在ハ坐テ其喪ヲ吊給ヒ
友善ト宣ヒ若ク味耜高彥根神ハ申セ
其御本ハ事代主神ハ申シ其和魂ハ御在ハ坐テ
萬ノ事業ハ預ル世給フ御上ニ各異アリ
此ハ本同神ハ渡ル世給ヒ故ニ事代主神ハ御
在ハ坐テ此三島大社ハ本后ト爲テ相副ヒ御在ハ

坐テ御事ハ有ル此ハ以テ天御梛ハ日女命ハ天
津羽羽神ハ同神ハ御在ハ坐テ
本ハ見志ヲ万由ハ不加ニ太仁ハ止利ハ加介ハ云ク有ル上件
由ハ有ル事ハ尋ル可ク○味耜高彥根神
御子ハ御事ハ右ハ二十ハ引テ出雲風土記ハ指
縫部神名ハ極山ハ略シ窺ヒ西有ル石神高一丈許ハ側有ル小石神百
餘許ハ古老傳ハ云ク向テ逢須ハ高日子命ハ后ト天御梛ハ日女命ハ
來シ坐ス多久村ハ産給フ多伎都ハ比古命ハ爾時教詔ハ汝命ハ之御社
之向ハ位欲シ生ル此處ハ宜シ也所謂ハ石神者ハ即是多伎都ハ比古命
之御魂ハ高旱ハ乞雨ハ時必令シ零ル也ハ有ル此ハ慥ニ其御
生坐ス御事ハ傳ハ此ハ姑ク此ハ其初ハ御子ハ定ム

多野川多藝津河
内三軒小不盡河跡
以乃後毛其之水乃
高島

可一其多伎都比古命之聞由る上五百九十二下注る分
如く瀧津彦命之申す意の御名を可一其當旱乞雨
時必令零也と有を以見る小其多久川の源ある瀧の
邊より小生出させ給へる由小依て自小其水を主る
世給ふ御功ある御在し坐ありけり一万余六十二下小
足引之御山毛清落多藝都芳野河之又十三下三吉野乃
多藝都河内之又二十下石走多藝千流留七八小此小川
白氣結瀧至八信井上尔又三十一下山川之瀧情字十四下
小瀬呼速見落當知足十一下高山之石本瀧千
逝水之十九十二下小安之比奇能山下響隨多藝知流碎

田乃河瀬尔あど猶有て一即水の激り落る所を称小
て其を多伎と云居て即瀧の名と成りし借其高一
大周一丈許と有る石神の側多々百餘の小石神あり
も皆其御伴神あり瀧在し坐りけり其ハ
天皇實録齋衛三年大洗磯前神の依來坐る明日有文徳
怪石見在水次高各尺許体於神造云々去後一日亦有并
余小石在尚石左右似若又同記小神内郡鹽冶郷郡家
侍坐と有を思ふ可一
東北六里阿遲須担高日子命御子鹽冶昆古命坐之故
云止屋神龜三年と見えたる此神の御祖の御事を載
さすと雖も決り右の天御梶日女命小御在し坐る
可事申すも更なり塩冶の名義詳ならずと雖も強

打放九三十一小燒大刀乃手預押祿利十八十七小夜

岐多知字乃奈美能勢伎尔二十五十一小夜伎多知能刀

其己呂毛安礼波あま見えて録を燒録と云か如く火守

ハ鋒守あまの義ふ可く大穗日子命の穂も右小同トけ

水ハ火守火と大穗と重水々心方才思ふ小火守ハ其社

子此ハ其意ハ異ナリ所無ク可ク故多一本ハ傍一本ハ燒大刀火守と

作少風土記ハ未官知小ト火守社ト有る後小官社

小ハ被成たり者ト所見たり但右ハ神名を燒大刀

ハ天穗日命の御名より混水たり天穗日子命神社ト有

有を取れり又未官知ト盞夜社同盞夜社ト有る神名

式小合ト見ト一ハ式の神産魂命子午日命神社ト

當水ト状ト右ハ午日命を一本小邑日々命ト有れ

其朝山郷の文ト謂由真玉著五之是日命ト

御在ト坐るト然ト時ト傳十五卷四百五ト注

ト其祖母ト坐ト又右ト引ト續後紀ト此島

坐阿波神是三島大社本后也又坐物忌奈乃命即前社

御子神也云ト阿波神者三島大社本后五子相生云ト

ト所見たり物忌奈乃命の義詳あらず例ト強ト思

ふ小奈ハ少彦名神の名味相高彦根神の根小同ト

添ト敬ト言ト物忌命ト申ト事ト可ト神名式

ト謂由ト大和国廣瀨郡廣瀨坐和加字加賣命神社名

大月次トを天武天皇四年御紀を始トト諸書ト火忌

神ト有少又出羽国飽海郡大物忌神社名神ハ同神

小て渡り世給ひて此ハ御食津神と申し此神饌を調進
し世給ふ御功小因れ御名あり事已小傳九四五
十四十小注を如し斯くけ此ハ然る御功小依物忌命
世御在し坐けり御名あり可し然る出雲風土記島
根郡朝酌御下小熊野大神命詔朝御饌勅養夕御饌
勅養五賢組之處定給て有る已尊の御為ありが揃道
郡玖潭郷云々所造天下大神命天御飯田之御倉將造
給並覓巡行給て又出雲郡美談郷云々所造天下大神
御子和加布都怒志命天地初判之後天御領田之長供
奉坐之云々と有るハ天神小奉り世給へる御饌の

御為と通由此ハ其を炊きて供奉り世給ふ神と亦何
どハ無くさる可し儲右小本后五子相生と有る中
小多伎都比古命塩治比古命物忌奈乃命三柱のこ見
えさ世給ひて餘り二子の御名の傳りてさるまむ甚
可惜し御事ありけり即神名式小謂ゆ伊豆国賀
茂郡物忌奈命神社名神是より續後記小兼和七年十
月丙辰奉授無位物忌奈乃命從五位下以伊豆国造島
靈驗也文徳天皇實録小嘉祥三年十月壬子伊豆国物
忌奈乃神授從五位上仁壽二年十二月丙子駿河国
物忌寸奈命神加正五位下と有る駿河ハ伊豆を誤れ

るより寸字疑ふ可し又齋衡元年六月己卯加伊豆國
物忌奈命神正五位下と有る此も仁壽と同階あり
如何伊豆志小在神津島今日定明神三島御子也云
神津島即續後紀小謂也上津島事小上
下支水たる上を云ふ可し但當音小上津ハ二字
今唱ハ如ク加宇豆よりけむ小借事小持字を
俗加宇豆ハ其意よりむ
思ハ上津あり
臨章小謂也頭國玉之女子下照姬
亦名高姬亦
是より名義ハ次小説べし借上百九十九注也
播磨風土記多可郡ノ文小黒田里袁布山者昔宗
形大神奥津島比賣命姪伊和大神之子到來此山云我
可産之時託故云袁布山と有る奥津島比賣命ハ

此小故此大國主神娶生胸形奥津宮神多紀理毘賣命
生子云と有る此大神神在坐即須勢理毘賣
命神事あり又伊和大神申す其大國主神小渡
と世給ふ神事此知我可産之時云ハ此黒
田里小産殿を建世給又云云支向
丘者宗形大神云我可産之月盡故曰支向丘と有る已
小臨月小至と世御在坐趣古事記地神
本紀趣味耜高彥根神下照姬命二御子坐
を味耜高彥根神右注三十一如出
雲國生奉世給慥証有け此

よてハ其高比賣命を一生奉る二給へる三ありけり
即神名式一謂ゆる大津乃命神社ハ正しく其々御子
あり御在一坐二事三を四慥五明六り七て八云九説十り十一但十二右十三の
二柱一外二あり三猶四御子五の御在一坐二け三る四と見五えて六上七百
十九一注二せる三同四郡五荒六田七里八の文九ハ十此十一處十二有十三神十四名十五道十六立
日一々二命三无四父五而六生七見八云九と十有十一て十二天十三目十四一十五命十六の御子十七を生
給へる一其二道三主四日五女六命七と申八す九傳十十八十一注十二る
分一如二く三瑞四珠五盟六約七章八第九三十一十一書十二ハ十三謂十四ゆる十五道十六主十七貴十八の御名
小一是二能三似四たり五故六情七思八ふ九其十道十一主十二貴十三命十四ハ十五三十六女十七神
を合一せ二奉三り四御名五ハ六而七須八勢九理十毘十一賣十二命十三の御事十四ハ

御在一坐二て三大四國五主六神七の嫡八后九あり十渡十一る十二給十三へ十四此十五ハ十六他
神一等二ハ三過四じ五給六ふ七可八き九非十ず十一故十二思十三ふ十四此十五ハ十六共十七ハ十八大十九國
主一神二の御三女四あり五渡六る七給八へ九る十を十一下十二照十三姫十四命十五ハ十六御
父一顯二國三玉四神五ハ六對七ひ八て九稚十國十一玉十二神十三と申十四せる十五並十六ハ十七御十八祖
道一主二貴三命四の御名五を六負七ひ八て九道十主十一日十二女十三命十四と申十五す十六御事十七ハ
こ一ろ二思三は四る五斯六ハ七此八道九主十日十一女十二命十三共十四ハ十五三十六柱十七の御子
等一を生二奉三る四給五へ六る七を八此九一十柱十一の御名十二の漏十三て十四正十五史十六ハ
ハ傳一は二る三が四み五者六と七こ八ろ九所十見十一たり十二けれ十三其十四天十五目十六一
本一紀二ハ三首四ハ五檀六原七朝八の事九を十云十一ふ十二即十三凡十四河十五内十六以十七天十八目十九一
命一爲二山三代四國五並六即七山八代九直十祖十一と有十二ハ十三疑十四ハ十五次十六ハ十七山十八城十九國
造一檀二原三朝四御五世六所七多八根九命十爲十一山十二代十三國十四造十五と有十六ハ十七是十八正十九説二十と
思一は二る三然四る五時六ハ七是八天九目十一十一命十二の十三子十四あり十五右十六ハ十七道十八主

日女命の生給へ 故其高比賣命の高ハ記傳小兄神の
高日子小對して異多事無し云れたるハ然レ説
多小御兄を高日子と申し御妹を高比賣と申せ
るハ當昔世小譬し無く甚も尊子大國主神の后腹
小御在し坐て自餘の御子等より復小勝りて高
可畏^{貴子小}御在し坐ければ佗より尊て高彦高姫の称
を以て尊の御元一事已小上 百 下 小注云か如く世
と打任せて大神と申すハ大國主神小坐し唯小神
の御の御也るハ事代主神小坐し々々小賀茂と云称
有小等し々々可し 先小ハ其生坐し多可郡の若小因
水々々々と思ひし々々上百ハ

十七下小引々風土記小託賀郡右所以名説加者昔在
大人常句行也自南海到北海自東巡行之時到栲此土
云佗土卑者常句伏而行之此土高者申而行之高或故
日託賀郡其跡處敷成名とあり有て此ハ後ハ事
多ハハ別 又地神本紀小高照光姫大神命坐倭國葛上
事あり 日有る此神の御祖を高津姫神と爲り別神と爲たハ
じ小上 五百六十六 小注云か如く御祖小御子と實小
ハ異無ク御事小て此高ハ右の如く貴子の謂より照
光ハ氏流と訓て下照姫命の照と一小て容儀の氣韻
満て照耀より美麗し御在し坐て高より照臨む
あとい謂ふハ有て々々倭右の坐倭國葛上郡御歳
神社と云細書有る此社ハ一傳十六 下 小注云

但此小説有傳十
九卷四百九十一小注
が上頁下下と云ふが如

如くして素戔嗚大神の孫大年神の御子にして渡りて
給へり小此を高照光姫大神命と爲てり事違へり
小似たりを上四十一小説少一飛彈國大野郡水無神社
も其御歳神にして御在り坐あり頭注小大己貴命女
高照光姫命母高津姫命大和國葛上郡御歳神社同之と
有て此小其姫神も御在り坐あり状あり御歳神の
從祀と爲り仕奉り已給ふ可し所以有を以あり小
此姫神を御歳神と申す小非可し右の高照光大
神命の大神ハ
衍あり可し頭注小高照光姫命と引る當音然る本
の有つるを取らるるなり三代實錄小元慶七年十二
月十八日按伯耆國正六位上天照高日女神從五
位下と有る此神々川村郡倭文神社を一宮記小下照

姫命と有る由有む又出雲風土記小神門郡多伎郡
にて今ハ試みあり
郡家南西十里所造天下大神之御子阿陀加夜努志多
伎吉比賣命坐之故云多吉神龜三年
改字多岐と有る阿陀加夜
努志多伎吉比賣命を風土記解小下照姫命あり可し
由云る然る言ふる小阿陀加夜努志の大高屋主
小て御祖を神屋楯比賣命と申す小依りあり可し
其ハ傳十五四百
五十一中六二百七
十七注分如し神屋建小
て御殿の高宗あり意あり小猶同郡八野郷郡家正北
三里二百一十歩須佐能袁命御子八野若日女命坐之
尔時所造天下大神大穴持命將娶給爲而令造屋給故

故云八野と其同神の御上ある事今遺屋て其小住給
へるが故に屋主の義ありけり其御祖の御名を負
奉り世給ひて大高屋主に申せらるめり多伎吉ハ
高君ありて右小高比賣命と有る御名小等しきを所造
天下大神の公主として甚止事無く御在し坐を以て
猶君の言を加へて称申せりしありけり即同記小多
支根社神名式小謂ゆる多伎藝神社是あり又多伎神
社同社大穴持神社と有て凡て三社あり右小多伎神
社ハ瑞津姫命と御在し坐てくして大穴持命と並
び御在し坐て事實小其謂有り風土記ハ多吉社多
吉社と出たるを式小

ハ大穴持命の御名を載りたる事甚愛たり此小ハ
御父母神と共小相並ハせ給ふと所見たり又未官知
小多支社多支ニ社と云ふニ社出たりハ
其属社あり可なり何神と知ず ○下光比
賣命神紀ハ下照姫小作也ハ万葉十八十二小多知婆奈能之多泥流尔
波尔十九九小春苑紅尔保布桃花下照道尔と有
る如く下照と其光の近傍小及ぶを云ふり天孫降
臨章第一一書小時味耜高彥根神光儀花艶映于二丘
二谷之間と有る即下照と云り可なり状あるハ更ふり
人世に成て小允恭天皇七年御紀小第姫の御事を容
姿絶妙無比其艶色徹衣而晃之是以時人号曰衣通即
姫也と見え古事紀ハ衣通即女の下小御名所以負

衣通王者其身之光自衣通出也と有るは御身之光の
艶ひ出る由あるは思合す可き者なり
記傳小
神父の顯
國玉小對へて雅國玉と稱申せざるを思へば此神と女
神ありて國小大なる功有けし事知れたり其小就
て思へば下照り都照り類り稱名と云ふこと云はれ
ども然し南えずあるは其雅國玉と申す由り天孫降臨
章小就て傳州一卷
百十 下小云べし ○下照姫命の御社の概略ハ地
神本紀下照姫命の下小坐倭國葛上郡雲梯社と有る
神名式小大和國葛上郡大倉比賣社一名雲梯社と見えり
る是あり此大倉比賣神と南えさすは其亦名ふる可
し此大藏の義ふし古語拾遺後警余雅櫻朝段小自此而
後諸國貢調辛ニ盈溢更立大藏と有る如く大國主神

の天下を主領す御在り坐す古も漸次小國との南
け行へ小隨神の貢物も多し成れる倉庫小收さし給ふ事り弥増し多く成以
て行へば然る御設を爲させ御在り坐ける御
時小當りて大藏の南園神物の吐納を掌らせ給へる
由り依て此御名は御在り坐す御事とす思はるる右
小引る出雲風土記指縫郡玖潭郷の文小所造天下大
神命大御飯田之御倉將造給並覓行給こ有て已小御
父大神より始て御倉の御事を物爲させ給へる小思
合す可くこり又彼阿陀加夜怒斯ハ大高屋主と云ふ
此大倉の御在り坐し大小似著る事あり者ふ

照比賣と書され三代實錄小貞觀元年正月廿七日甲申奉授攝津國從五位上下照比賣神從四位下と所見たり万葉三二十小久方乃天之探女之石船乃泊師高津者浅尔家留香裳と有て神代の遺趾と所見たり然し其比賣許曾社記小雀宮神社二座別雷命飯豊命下照媛別社也勸請奥州白河郡仙谷郷矣と有六十一上五十一小注るが如く別小故有て祀る者と所見たり同神と雖も亦名を以て祭別たゞ例少くゞゞ者あり又東生郡式外豊津稻生社と申す有り其社記小云々くハ往古下照媛命倉稻魂命を上社とし其後二社を造營して

推日女尊月讀尊を中社とし軒遇突智命を下社とし三社を齋祀と云り此小倉稻魂命と有ハ保食神あり可し此神小飯豊命と申す御名の御在し坐す所以此小在て右十四小注るが如く此神の御歳神小屬奉る給へる由し詳小知る事あり如此く式内式外共小二社御在し坐ハ古此邊小住て甚所狹り神あり御在し坐けむ御事想像奉る可し又上二百四小注るが如く武庫郡伊和志豆神社鉾の伊和ハ播磨國完栗郡伊和坐大名持御魂神社名神小御父大神の御事あり志豆ハ伯耆國川村郡倭文神社を一宮記

三代實錄下卷
元年五月廿七日甲申
奉撰撰津國後五位
下向和志豆神後五位
上見之

台伊賀國中初鳥
按神社伊水濕故所
祭下照命二有少
三河國國神
社所

小下照姬命有少思合可但承小約大月次
新嘗有上田百樹
說小同郡名次神社鐵鞍祈雨祭式小名次社一空
有少然祈雨神祭八十五座並大有此神社
大少有少伊和志豆神社細書及採
混下者多可實子諸依
て多
けり ○三河國宝飯郡御津神社和名抄小御津美都郷
有少風土記小御津莊云々御津神社圭田五十六束所
祭下照比咩也天武天皇四年乙亥二月始奉圭田加神
礼之有御津此神御在坐攝津國地名を
此小移さ者多可文德天皇實錄小仁壽元
年十月己亥朔乙巳參河國御津神授從五位下見え
當國神名帳小正三位御津大明神坐宝飯郡有少

大同類聚方十小母良世藥參河國宝飯郡御神社傳方
御之里村瀨貫名之家文藥也有此二共小津字
を脱せ少御津神社御津之里有文事
更又神名帳從四位下大藏明神坐八名郡有
ハ右小云々大倉比賣命申方以祀多
又神名式宝飯郡石座神社天稚彦坐此
等所由已小上二百八注止此社今御油宿東南國府南三
津村在舟洲明神云吉田羽田野敬雄
云當社今御津莊廣石村御津大明神云今
廣石茂招森下西方汗野大草赤根七村を莊号小
此を御津七郷并然他廣石在御
津云來水御津今美登訓又二葉招
云物小御津始孝元天皇行幸當國之日奉寄鷓首於

○日本書紀傳三十

○千四十七

此津因此号御津濱と云う是
古老の傳ふ所と所見あり
社名神の中七社小聖女巴と云有を注式小稻荷秘説
云下照姫と書して此を稻荷と云亦名を飯豊命と
も申りし因れどもなり日吉神通秘説にも聖女宮
神代下照姫是巴大己貴尊之御娘也とあり但佐小安説
を多く書かたりを據ふ足らず又伊香郡大樟神社大
倉比賣神の例も素性集も浪向より大倉山小積と稻
の積とも盡し君が千歳ハ夫木集三十一兼盛君が
代を待しと灼く大倉家集大里の長路家集を見
るが樂りさしと見えたり長秋詠藻も大倉山を詠

ウ三代實録小貞觀十三年二月十六日 授近江国
正六位上天若御子神從五位下と有ハ天稚彦神と聞
えり由有げ多事共あり但其社の所在未詳あり
○美濃国多藝郡多伎神社ハ大己貴神為津姫命下照
姫命三神也御在し坐むと思ゆ由有上四十
小注せり○飛騨国大野郡水無神社一宮記ハ御
歳神と有を頭注ハ高照光姫命と云ハ此御事傳ハ
六百三十一上四十三下小己注ハ今云ハ又式○上野国
社名帳ハ碓氷郡從四位上若國玉明神那波郡倭文神
社とあり御事ハ上六十下二注せり○下野国河内郡二

後此説より成て
傳三百三十一注せり

荒山神社 名神 御事ハ上 六十四丁七 小注石カ如ク
此を日光三社と申せ外小寂光と云々有テ所祭下
照姬命ありと云ウ ○陸奥国白河郡飯豊比咩神社今
飯豊村小御在シ坐ト云ハ加美郡飯豊神社を觀迹南
老志小石神社在小野田本郷有巨石長五尺濶四尺方
三間神名帳所謂飯豊神社是也郷人誤爲飯鳥屋神社
と書シ安積郡飯豊和氣神社を松藩搜古と云物小阿
多々羅日甕明神と云ウ有小紀略小寛平九年九月
七日己卯授陸奥坐正六位上飯豊別神安達嶺祢巨大
刀自神安達嶺飯津賣神並正五位上見之云々

ハ其所祀合セテ右ハ三神と見えたり其飯豊命と申
すハ下照姬命ハ別祢云々由云々小飯豊別神と申す
ハ男神ハ祢云々云々天稚彦云々傳中一百五十五見云々若ク
ハ神祇神云々坐云々其阿陀多良と云ハ彼阿陀加
夜努志多伎吉比賣命ハ御名ハ近乎小就考云々祢
巨大刀自神と申すハ彼奉助天孫爲天孫所祭也と有
る意ハ其御祖三々神小坐る可此飯津賣神ハ其
下照姬命ハ常給ふ可クウウ借上七十小注云
カ如ク會津小飯豊村と云有テ陸奥一國小テハ大山
多ク越後出羽小跨カテ四時小雪絶テ山上小社有

又出羽國此神所
古名... 御名...
敬事... 御名...
又傳... 一福...
又風土記... 古歌...
玉前... 鳥神社...
田... 三... 田...
... 武...
... 甲... 三... 月...
... 行... 神... 禮...
... 外... 多...

少此を飯豊權現と申して甚神... 神境ありと云
少然る時ハ式小ハ漏... 此山上あり
本社あり少ハ右ハ三所ハ其別社あり... 思...
和名抄小字多郡飯豊郷... 有... 右千四十五下
比賣許曾神社記小雀宮神社祭神二座別雷命飯豊命
下照媛別称也勸請奥州白河郡仙谷郷英... 有... 此國
小右ハ神等ハ由緒... 能登國羽咋郡推葉圓比咩命神
坐中事見えたり... 訓... 圓ハ發語... 小
也有心圓ハ都夫良... 訓... 撰津國西成郡ハ都夫良江
小由有少四次小注... 太倉主菟夫良媛ハ所小考合...
可一〇越中國婦負郡鷓坂神社上... 八十四下九... 注...
百六十五下

ガ如ク伊賀國山田郡鳥坂神社を伊水温故小所祭下
照姫也... 書... 又或書小邪子内親王御歌ハ祈... 詮
こ... 無此獨子を何時ハ鳥坂ハ神垣ハ内ハ詠... 給
ハ... 是... 今何祥郡鳥坂村ハ在... 云... 例...
思... 此鷓坂神社ハ其下照姫命小御在... 坐... 可
一万余十七... 婦負郡渡鷓坂河邊時作歌一首字
佐可河泊和多瀬瀬於保美許乃安我馬乃安我担乃
美豆尔伎奴ニ礼尔家里... 有... 古... 地名... 續後
紀小永和十二年九月乙巳朔奉授越中國婦負郡從五
位下鷓坂神從五位上三代實録小負觀二年五月廿九

日戊寅進越中国鷓坂神階加從四位下同四年十月九
 日甲辰越中国從四位下鷓坂神授從四位上一同九年
 二月十七日 授越中国從四位上鷓坂神從三位と
 有る此ハ氣多大神の右神と思し由有て上九百六十五丁
 不注るが如く須勢理毘賣命御在し坐てるを
 同録小同 年月日 越中国正六位上鷓坂
 神比咩神鷓坂毒比咩神授從五位下と有る此二柱の
 中より下照姬命御在し坐てる夫木集廿二不
 何れ為む鷓坂の森小見ハ爲こし君々三三三答の教ありぬ
 身結句教知ぬ身ハと有る俊頼抄小是ハ越中国の鷓坂明神の祭日

龍眼木の答ふて女子男したる教小隨ひて女を撃ふ
 少其時ハ祢且小醫を任せて黙モクす祢且杖を以て教を
 向ふ多々女子耻て隠せば忽神罰を蒙るとも彼祭
 をハいこがさ答立祭とあり云傳はる但古歌の見えぬハ自
 歌を書て侍るあり云と有ハ女子男を教したるを
 惡ませ給ひて此ふて其罪を糾つ耻し給ふ御事あり可し
 上下二 不注せし須勢理毘賣命の帝歌ハ阿波母與賣
 迹斯阿礼婆那遠岐互遠波那志那遠岐互都麻那斯と
 有て女人の一人ニ見ざる事を御自宣ハ給ふ許す
 神ありて渡り給へハ其非違フイを糾彈し給ふ事神事して

公祖故日録云物十右
 月廿三日と云

是尊しと何と云へば更なり此を以て予の常小
 云如く古の神祭神事ハ凡て天下を静め人民を治さ
 世給へる御事多者下ク
 又此小似たる事有り
 仁壽二年三月
 下印翔甲戌接近江國筑摩神從五位下
 有テ式外多ク
 啓蒙小在坂田郡筑摩奈神而食津神と有テ式外多ク
 四月初午日筑摩奈と云有テ伊勢物語第百十段小昔
 男女の末世の經ずと思えたる人ノ御許小思ひ
 物前えて後程經て近江ふる筑摩の奈疾爲ふ難面
 日人の鍋の教見むと有テ拾遺集ハ初旬何時
 大明神の奈小逢たる男の教程堀を頂きて女子渡
 多り今按云近江國湖の東の海邊小野梨と云ふ右
 所ノ南十餘町過テ筑摩庄有テ此村の明神の祭ハ四
 月午日あり其村の女共我が爲たる教程土堀を作少
 了板小取並て頂きて祭の堀を渡るあり男爲たる
 教を隱す時ハ神罰を蒙るは然るを昔淫婦有テ
 餘多り男爲し事を耻テ大なる堀一を頂きてつる男の

教程小堀を作うテ大堀小入り小して人目を隠せ
 大ハ神慮小背きて轉じ小多く小堀の岸北出
 小後拾遺集小思末小筑摩の神ノ爲ふる何つ堀
 教ハ入る可小千五百番歌合小逢事ハ筑摩の神小祈
 少來テ並ての教ハ入る小然ハ清輔集小寄社志
 世共小泪をのこ不沸ハ筑摩の堀小入ぬ物故又
 源氏五鬢卷引歌小六帖筑摩江小生不茂草小水早
 未寐小見ぬ人ノ恋小歌枕小如何小爲む筑摩の
 神小埋水小計け小堀の教ハ身をなと有テ名高
 事多り件の鶴坂奈筑摩奈共小其男したる事を耻
 了隠す時ハ忽神罰有テ思へ其不負を甚く思ま
 給ひ然る淫乱ふる事を禁し其神ノ敷坐す地
 女人を清く爲給はむと神慮ふる事決り者あり
 可畏 ○越後國古志郡宇奈具志神社ハ雲梯神社と云
 事ノ聞カ右千四下注大和國葛上郡大倉比賣神
 社一名雲梯社と有テ同トる可ク ○丹波國桑田郡多吉

神社ハ下照姫命三十一坐三十一へ三十一由上四十一不三十一多紀郡大
 賣神社を意富比賣訓高姫と申す不意通ひて
 聞也其上多紀と云ふ郡名也此神不依此りと思して
 ハ如何也但馬國美合郡阿故谷神社出雲國出雲郡阿
 具吾神社と申す有少阿故谷ハ阿古夜と訓ハ非
 小ハ若然ハ上六十一引又傳世百五十出羽國ハ古説ハ古出雲
 國ハ阿古夜と申す姫君有少云ハ或時下江と云所不
 出けハ大水溜有ハ雖ハ群山相重り下ハ流ハ
 事能ハ此ハ於テ人夫を促ス其山を切流ハ
 水勢甚早ハ急ハ流落テ唯最上ハ内ハ長ナド泥ト

阿故谷神社を
 上觀

澤蟹澤ツカニサハ云所ハ水残少大抵ハ平地と成り其
 地今最上郡と云是ハ其水流ハ謂ハ最上川と
 云ハ是ハ其山を流ハ入ル土砂ハ亦國と成今
 の庄内ハ地是ハ全ク國作リ御事ハ阿
 古夜ハ阿陀加夜努志多伎吉比賣命と申す御名ハ上
 方ハ似ハ阿故谷と云右ハ續風去記ハ在ハ轟木村北
 傳ハ九卷百六十三ハ阿故谷ハ稱ハ森大明神と云内
 大己貴ハ彦名二神ハ在ハ坐ハ地ハ多ク野神社ハ
 思ハ但各字ハ今ハ多ク河内郡上阿宮社ハ高
 風土記ハ阿具社ハ有ハ河内郡上阿宮社ハ高
 野明神と云其鷹野ハ因幡國高草郡倭文神
 神社ハ就テ故ハ由ハ有ハ御有ハ因幡志ハ倭文郷倭文村
 社和名抄ハ委文ハ止ハ

〇日本書紀傳三十一

千五十三

○山上に在り七休大明神と稱す是より社傳云祭
神大己貴命より有る禰父より向ふて傳り別
るより此の下照姫命より坐す也然るに伯耆國川
村郡倭文神社を一宮記す下照姫命と有り又大同類
聚方本○利樂伯耆國川村郡倭文神主之家方原者下
照姫神方と有り此を以て久米郡倭文神社も同神と
す事を明くむ可し借此を以て思へば丹後國加佐郡與
謝郡但馬國朝來郡より倭文神社も同神とて天孫
降臨章に謂わす倭文神建葉槌神の方より無く倭
文を志豆と訓て下照の如く於るよこすに有けり其

亦より事共の上百十云りさく○神は或播磨國
多可郡大津乃命神社此郡より黒田里に此女神の御生
所あり可き由右千三十注るが如し又風土記に謂
ゆる美囊郡志深里許曾社に此下照姫命坐す上
百九十見り可し○此之阿遲銀高日子根神者今謂迦
毛大御神者也と有り迦毛の上四百九十二注る
が如く禰父大國主神を上古に唯小大神とて稱
申せり小對して神と申すに此神も御在り坐し
後小其神跡の地を更なり後小齋奉る神社も其
神封の地をいふも負せて呼ぶ事より成れりとも本

ハ唯崇まへて神と申し義ある者あり大御神と申す
由ハ記傳ハ大御神と申す事ハ天照太御神ト如ク最
尊ク神あり如何ハ思わらるる此記ハ例天照
太御神ト云ハ何處ハ何處ハ太御神ト有り其餘ハ伊
弉那岐太御神ト唯一處ハ在らるるト云ハ見
ず大神トハ此彼を申せり如此有ハ記中ハ例無
事あり三十一ハ宇奈原能邊尔母奥尔母神
豆麻利宇志播吉伊麻須諸能大御神等十九三十一ハ墨
吉乃吾大御神等ト有ハ古ハ何神をハ尊とてハ申け
ハ皇大御神等ト有ハ古ハ何神をハ尊とてハ申け

るハ補意ハ有ハ猶延暦十九年ハ書ハ丹生津比賣
社記ハ丹生都比賣乃大御神高野大御神及百餘大御
神達ト見ハ長寛勅文ハ引ハ初天地本紀ハ熊野大
御神又后名大夜々命山狭村宮柱太知奉而静坐大御
神ト有ハ今ハ大神ト書ハ意富迎微ト云ハ意
富年賀微ト唱ふるハ大御神ハ音便ありけハ古ハ
ハ何れハ神ハ廣ク申せりト見ハ但某大御神ト
ハ事ハ状ハ隨ハ其大御神ト申ハ然ハ可
ハ日神ハ限奉少ハ申ハ可ハ事本ト有ハ然ハ今
京ト成

ハ春日平野等日神ハ皇太神ハ申ハ餘ハ事
多ハ今正ハ云時ハ皇祖神ハ限奉ハ然申ハ可
其餘ハ唯ハ大神ハ申ハ故其迎毛大神神ハ聞ハ
不當ハ稱ハ可ハ記傳ハ注ハ如ハ神名式ハ謂ハ大和國葛
上郡高鴨阿治須岐說彥根命神社四座並名神大月是
次相嘗新嘗是
あり其御鎮座日御事ハ出雲神賀詞ハ乃大光持命乃
申給久皇御孫命乃静坐年大倭國申天已命和魂手八
咫鏡取託天倭大物主搦懸玉命登名守祢天大神和
乃神奈備坐已命乃御子阿遲須伎高孫根乃命乃御
魂手葛木乃鴨能神奈備坐云皇孫命能近守神登
貢置天八百丹杵築宮鎮坐有御父大神國

避御時より御在坐乃奉給乃あれハ天下小
在乃此神日御社日中乃此處不是止事無ハ小
ハ有ハ祭神四座日說今詳ハ雖ハ上六百五
注ハ元曆奏上記ハ欽明天皇十八年四月中自大
和葛木鴨逢日村社本所祭三座見神皇見神以味耜高
彥根命陪之地依神宣迂山代別雷山遺味耜高彥根命
止葛木鴨吾勝尊與見神至祭於山城以皇見神思穗祭
上社以見神鳥尊祭下社有古ハ三座乃あり
此文ハ如ハ吾勝尊と見神と右ハ二柱神日此小御
在ハ坐ハけを唯味耜高彥根神を留めて余ハ山城小

公上五百七十四下注云が
如く出所云なり初在し
生丁城上郡長谷朝倉
の地小高鴨と記されしを
後合て祀れり云々

迂奉りりしある可し然る時右の三神と今一所の
后神天御梶日女命と合せて四座と所見あり
但右の二神の神靈を此に留め坐ずし其餘の二神ハ
何れハ神といふ今知る可くすし雖も本より由有て
共ニ並給へし神の神靈を留めさせ 借式の一本書
給うと云理あり有て非ざるを 入小大己貴命一男也又捨後社と有る地神本紀味耜
高彥根神の下小坐侍岡葛上郡高鴨社云捨後社と有
を取れりふり其高鴨社と申すハ記傳小同郡鴨都
波八重事代主神社二座 並名神大月と申すも有て迦
次相嘗新嘗
毛と云ハ此邊の大名あり此神社の地ハ高日故小彼
事代主神社と分む為高鴨といふ云々可し和名抄

二見又加茂島云

小上鳥下鳥と云ふ郷名有る若くハ鴨ノ鳥ノ誤小
ハ非るはと云わたりハ如し其事委し上 四百
小注し捨後社と云事外ハ故事あり有る今考ふ
可くくず借出雲風土記ハ意宇郡賀茂神戸郡家東南
卅四里所造天下大神之御子阿遲須杵高日子命坐葛
城賀茂社此神之神戸故云鴨 神龜三年
改字賀茂 即有正倉と有
ハ和名抄小謂ハ賀茂郷是あり此ハ其高鴨社の
神戸諸国小多在少ノ事を知て又古小其神社ハ世
小御隆元坐下御事をも想像奉る可き者なり今ハ大
塚村と云小四社大明神と申して立せ給へるハ其神

の御厨の跡處をり神祇令地祇義解小葛木鴨に有
ハ此御社を申し和名秋山葛上郡神戸郷有ハ當社の
神封ありしを思合申可し三代實録小負觀元年正
月廿七日甲申奉授大和國從二位勳八等鴨阿治須岐
宅比古屋神從一位に有ハ然る小其次小正三位高鴨
神從一位と云事有ハ同ト神小同ト時小同ト御位を
奉授くせ給ふ事有ハ有ハ思えざれば此ハ上
百 下 小注ハ如く飛鳥神を誤り事著明ハ有ハ
有ハ其心して辨ふ可事ありハ記傳ハ此御
神通寺村と云ハ在ハ高鴨山と云ハ有ハ倍此邊六
村を佐味庄と云ハ是古ハ神戸郷ありと云ハ然ハ

公言議あり

ハ神戸ハ即此御社ありハ也 ○賀茂神社と申ハ諸
國ハ立セ御在ハ坐ハ中ハ殊ハ世ハ可畏ハ御在ハ坐
ハ御神名式小謂ハ山城國愛宕郡賀茂別雷神社名
若雷名神大月 是あり即味部高彦根神ハ渡くせ給
ふ御事委ハ上 六百四 注ハ奉ハ又葛野郡栢尾
神社二座 並名神大月 中ハ大山咋神又近江國滋
賀郡日吉神社 名神 山末之大主神と申ハ同神ハ
ハ渡くせ給ハ由ハ傳十六 百五十二 上 三十 小注
ハ奉ハ今云限ハ非ハ立復ハ其所ハ就ハ見奉ハ
明ハ可ハ ○棋津國東生郡阿邊速雄神社ハ風土記

公續記小勝生野
と見え

小味鉏山昔味鉏高彦根命坐故云味鉏山後号味原山
と有る味原ハ阿邊布と訓テ孝徳天皇白雉元年御紀
小味經此云阿賦賦と有る是乃の万葉六十四小奥鳥
味經乃原尔又四下六下 尚食向味原宮尔と見え和名抄郷
名小味原と見え民部省圖帳小味原庄云云云典藥寮
式小味原牧と見えたり又難波の古圖小高彦崎と云
と所見たれハ上代の神跡多事決は者多り此小就
て思ふは此邊を御津とし云事ハ高津宮殿は於是
太后大恨怒載其御船之御細柏者悉投棄於海故號其
地謂御津前也と有る起れは論無物は右十五

小島下御味ハ里
と有るハ式小謂也
三島鴨神社思
合ハ可

下小注ハ如く此神小就テ出雲国仁多郡小起れ
地名ありけりハ此小其称を移されたりけむを右
の御細柏の事小依テ愈御津の号ハ定れりと見ル可
くハ此社在放出村今称ハ日本書紀又武庫郡名次神
社大月次ハ上二百四十五下 小注ハ如く名ハ阿那ハ略次
ハ邦借字ハ味邦高彦根神ハ御在一坐ハ思由
三代實錄小貞觀元年正月十七日甲申奉授撰津国従
五位下名次神正五位下と所見なり此大月次新嘗の
下伊知志豆神社ハ下ハ考合ハ可一万葉三卷二
十下ハ吾妹見二指名野者令見都名次山角格原何時
可將示ハ有ハ今ハ名次園ハ云ハ此社地ハ然ハ不
有馬郡神尾村ハ名次山ハ云ハ同名ハ有ハ神尾ハ例ハ

○日本書紀傳三十

○千五十九

如く鴨尾小下此
 神小由有るふなり
 〇伊賀國伊賀郡依那古神社伊水
 温故小味耜高彥根神を祭る江大明神と稱すとなり
 其山田郡阿波神社ハ后神天津羽羽神小坐下由上百二
四十
七十 小云々を見べしなり 〇尾張國羽栗郡阿蓬加神
 社本國神名帳ハ從三位足近天神と有り上二百八
十三
 小注るハ如く出雲國出雲郡阿須伎神社ハ味耜高彥
 根神小坐小思合可一又春部郡小安食郷ハ六ハ和
 名抄小見ハなり 〇參河國額田郡謁播神社ハ上九十
三十
 小注る丹後國與謝郡阿知江神社阿知江部神社ハ
 例小等ハ一ハ此ハ味耜高彥根神小坐ハ一ハ和名抄小

鴨田郷見え又磯部村ハ地有ハ思合可一 〇遠江
 國磐田郡豊雷命神社風土記ハ小豊雷神社云々仁徳天
 皇之三年乙亥四月所祭別雷皇大神也ハ見ハ上四十
八十
 小注る事共見ハ可一 〇駿河國安倍郡足坏神社ハ上
七百二
十六 小注るハ如く味耜高彥根神小下渡ハ給ハ
 〇甲斐國山梨郡神部神社名勝志ハ今加茂村加茂
 明神ハ云々祭神別雷神ハと書ハ又風土記ハ小都留郡
 賀茂山神社ハ所祭別雷神也云々ハ有ハ本ハ
 味耜高彥根神小下ハ帝ハ在ハ坐ハなり其説ハ上四十
五十
 注ハ下總風土記ハ小相馬郡琴泊神田圭田ハ四十五

東六字田所祭味耜高彥根神也齋明天皇二年丙辰二
日奉^{小次小大井莊を云}田加神礼祭事^見之見^{和名抄小大井神有之是}
あり又猿島郡高根郷有をも思合す可き者あり○常
陸国小八三代實録小貞觀十六年五月十一日丁酉授
常陸国正六位上飛護念神從五位下と有る此ハ式外
あり味耜高彥根神と由神名式より多珂郡佐波之
地祇神社那賀郡阿波山上神社と得去す^下所以
有を其ハ上^{五十一}九下^{小注}あり^一○近江国犬上郡阿自
岐神社^{和名抄安食郷有之今ハ阿自岐村と云小立世}
神在^一坐と^二之あり今一座ハ神祖神と^四わ^{神在}一坐と

ウチノ心又伊香郡足前神社と申と見えたり○上野
国山田郡賀茂神社頭注小大山咋神と有り神名帳小
勢多郡從五位上白川明神と有る共小味耜高彥根神
小渡^三給^入る神事ハ上^{六十一}二下^{小注}あり^加○下野
国河内郡二荒山神社^{名神大}一宮記小味耜高彥根命と
見由此神事上^{六十四}百三十四下^{小注}一奉^此あり○陸奥国
白河郡都古和氣神社^{名神大}頭注小味耜高彥根命と
有る白河故事考と云物小都古和氣神社南郷八槻
村一宮記田日高彥根命當社別當大善院所傳縁起日
大日本武尊東夷征伐の時八溝山に戰場へ出現し給

ふ加勢の三神面足惶根事勝因勝長狹命三柱ありけ
り日本武尊を此を勸請ふ給ひ此と有り但此小辨
有り右の面足惶根と云々岐神あり可く東國の俗此
神の御事を道陸神ミチノクニノカミと申し又訛りて第六天神と申
す俗説の天神七代と申す第六小當り世給ひ
を以て終ふ其神の御事と心得僻めたり依れり者
あり其事勝因勝長狹命と申す即味耜高彥根神小
て渡り世給ふ御事上二百三十八丁小租云々を委しく天
孫降臨章不就傳世抄三十一定むる如くありん頭注り説小合
事云々更あり續紀小室龜十一年十二月丁巳陸奥鎮

守副將軍從五位上百濟王俊哲等言已等為賊被圍兵
疲矢盡而祈挑生白河等郡神一十一社乃得潰圍自非
神力何存軍士請預幣社許之と有、此神を始として
其余二郡の神共小預り給へる御事申すも更あり但
二郡の官社式の如く十三社ありけり、其後小二
社を被加たる御事あり可く續後紀小集和八年正月
癸巳奉授坐陸奥國白河郡勲十等都二古和氣神從五
位下銓如故と有り同三月癸巳小此と同卜事有、
重複の事灼けり、今舉げざるあり國部春平説小白河
郡柵倉の南一里八槻村小此神社有り味耜高彥根神

大同類聚下二卷
 小南積原陸奥國白
 河郡都古和文神
 社之祝等奏流方
 有以此社方小南積
 原之名有安積郡
 宇奈呂和氣神社
 名神大也小田有
 上三十七下見合
 可

小日本武尊を相殿とす社預修驗大善院日記小當國
 風土記八槻郷の文を載て八槻と稱す所以又日本武
 尊土蜘蛛退治の事有少と云り但八槻郷和名抄不見
 えむ彼故事考ふ謂ゆる八溝山の事あり少也觀跡南
 八南山明神乃都古和氣神社是也往時南山去今新
 宮可二里北杉野之時于白河城外驛口今社地在白坂
 奥野之疆建兩社以為南山神云々と云々大地地理
 違て少其上山神と申す謂ゆる手向神ふころ
 有以此何れ式同郡八溝嶺神社右の如く日本
 武尊の凶賊を退治せ給へる所より上六十注々
 かく白河故事考ふ八溝嶺神社黄金神也今所祭二
 座山王大己貴命日本事代主命と有て山王日吉神

社の御神より大山咋神と山末之大主神とも申
 して即味耜高彥根神より渡り世給へるが右小日本
 事代主命と申して違へる非ず又同郡石都古和
 氣神社の故事考ふ在石川郡須釜村俗曰八幡祭神高彥根
 命神主所傳記小此神炭を作の事を人々小教給ひ
 事塩竈明神の塩を焼く事を教給ひ小同小同村大
 守寺文書小此事の趣見也大守寺永和三年文書小陸奥國
 炭釜云々有を見れば味耜高彥根神此地小炭釜を
 作りて炭を焼始り世給へるよりけり神武天皇戊
 午辛御紀小焯炭又炭火の事有を見れば神代より以

降諸国して適く用ふ所の物多し事決くふむ有り
備又寛喜縁起と云物石都古和気神社録足公
常陸より奥州へ越て一日筒有を見り自破れ申
鳥卵有り虚空小光を焼く我是靈神ありと云ふ神
姓を向ふ高彦と答ふ味耜高彥根神多可山を筒
子山と云ふと有れども此公は陸奥小湊在り坐た
由諸書小見え草中の筒甚以て安あり此石都
古和気神の御在り坐り依り筒子山と云名有り思
寄れ事あり味耜高彥根神坐り云證小成
ありけり今思ふ都古と云土疑義あり水母

如し^つ國土を凝一固めさせ給へる謂ふも有り
べり^つ伊波止和気神社此神は天津羽
下照姬命坐り永倉神社信濃国佐久郡長倉神社
と例あり衣弟建御名方神坐り富郡小后神
御在り坐り事不審和名枚會津郡郷名小多具長
江大島等有を長江此神由有り大島御祖神
由有り多具二十十九丁引出雲風土記楯籠郡
神名極山の文古老傳云所遷須賀高日子命之后天
御梳日々命來坐多久村云有り由有り然れども
其向遠りけり神名式小謂力白河神社あり小
富可^つ難言宮城郡志波彦神社名神塩彦
神と申由風土記小同郡塩竈神社圭田五十六束所祭
塩土翁也推古天皇二年甲寅七月始奉圭田行神事
或祭等有神家巫戸等略下有決此神社あり但

塩土翁と云ハ塩竈神社と云イリ云説小テ天孫降臨
章第四一書不謂由之塩土老翁とハ別多リけり
和漢三才圖會不塩釜神社を祭神一佳味糶高彦根命
相傳富社明神始焼塩と見えたり右ハ石都ニ古和
気神社の傳不災を作事を教給へる御事不並て
塩竈明神の塩を焼く事を教給ひし由を云ハ味糶
高彦根神の此御事を始せ給へる不依て塩彦神と
ハ御名不負せ給へるありけり借上古焼塩の法ハ伊
勢国奄藝郡尾崎神社記不文字年中陸奥国塩竈明神
祠官金吾太夫別保延運者所由有互富所不來利尋此

尾崎神社神主止為利延運從來造焼塩不妙術得
其為法也清淨藁二十八莖手精天塩一掬手包武火底
尔理美神呪手誦天燒之是塩竈明神上古傳來之法也
云々有神傳不有不けり上古不此神の
始不世給へるハ潮を煮て塩と成事不藻塩有
のむを右ハ其塩を再焼不俗不子燒塩と云物不
成せ不法不此不信不神傳不有不事不更不
め不三代實錄不貞觀元年正月廿七日甲申奉授陸
奥国正五位下勳四等志茂彦神從四位下と見也南老
志不塩竈神社志多賀城址十八町余在塩竈村云々或

曰延喜式所謂志波彦神社是也志波志保相通云々
又有然之說ハカニ又栗原郡志波姬神社名神ハ其
志波彦神ハ后神ニ聞也ハ聞老志ハ去高泉驛北三町余
有一泓泉傍有叢祠是古之志波姬神社也有旱魃則鄉
俗禱雨而有應仍稱之清泉神社ハ所見ハ三代實錄
小負觀元年正月十七日甲申奉授陸奥國從五位上勳
四等志波姬神從四位下見也右ハ志波彦神社ハ並
神社在坐即上六百八十ハ注ハ加ハ風土記
志波彦神ハ右ハ如ハ旱
魃ハ雨ハ祈ハ驗ハ在ハ坐ハ其ハ同ハ神ハ坐ハ靈ハ神ハ也
志波彦神ハ所ハ祭ハ饒ハ速ハ日ハ命ハ也
有ハ津ハ波ハをハ誤ハれハ志ハ波ハ彦ハ神ハ社ハ也ハ思ハ也

事ハ別ハ鹽ハ竈ハ神社ハ也ハ越前國丹生郡雷神社
を載ハたハ即ハ其ハ雷ハ也ハハ別雷神ハ在ハ坐ハ也ハ今ハ立ハ郡ハ須ハ波ハ所ハ須ハ疑ハ神ハ
社三座ハ有ハ諫訪神ハ所ハ須ハ疑ハ神ハ也ハ外ハ今ハ一ハ柱
在ハ坐ハ也ハ可ハ此ハ等ハ事ハ共ハ上ハ七ハ十ハ注ハ奉ハ也ハ
○加賀國加賀郡賀茂神社風土記ハ賀茂山神社在
田五十七束三畝田所祭別雷神也敏達天皇二年
癸辰四月始奉主田加神礼ハ見ハえハ也ハ又須波神社ハ
味耜高彥根神ハ坐ハ也ハ○越中國新川郡神度神
社古事記天若日子段ハ於是所遷志貴高日子根神云
枝所御佩之十栴劍切仗其喪屋以足蹶離遣此者在

美濃國藍見河之河上喪山之者也其持所切大刀名謂大
量亦名謂神度劍と有る故事小由有る和名抄小布留
郷有る又佐味比左郷有る思合申可一○丹波國桑田郡
船尾神社大井神社の御事上三十一注一申廿九同
郡石穗神社の其神の后天津羽の神の御父のとて渡る
世給ふ可り由右九十二引三土佐風土記上左郡
有朝倉郷郷中有社神名天津羽羽神天石帆別命今天
石内別神子也と有る思合申可り多心又何鹿郡所須
と伎神社坐る例の所須伎神社坐る等一可一○丹
後國與謝郡所知江神社味耜高彥根神坐る

此事上三十一注廿九○出雲國出雲郡所須伎神社御
在一坐る味耜高彥根神の諸國不在也想本社と坐る
申心狀多其屬社甚多在る相並び同社神
韓國伊太比神社同社天若日子神社同社須佐袁神社
同社神魂意保乃自神社同社神所須伎神社同社神佐
佐那伎神社同社神所麻能比奈等理神社同社神伊佐
我神社同社所庭須伎神社同天若日子神社と有る凡
下式小載心十一社多文德天皇實錄仁壽元年
九月庚午朔乙酉出雲國所須須伎高彥命授從五位下
思有る決る此所須伎神社坐心渡る世給入少心

風上記小右ノ十一社共小唯阿受社との書せ
少又未官知小阿受社同阿受社同社同阿受社
同阿受社とし其下小同社と云る廿三小て凡て
廿八社あり備官社未官知共小凡て三十九社あるが
大社志を見ら小阿式社と有ハ件小阿須伎神社小當
少て別小廿八社と云る不其一神を除きて餘ハ式内
式外三十八神を合して此小祀奉る小有て其外諸国小廿
八社と云多り其所祭此と同ト云可大小
国葛上郡一主神社又ハ金剛山吉野山等小廿八社
と云有是少又春日小社所記云金
峯山藏王權現と有ハ其吉野山より遷奉る少廿八
所を藏王權現と僻心得しつる少注式小廿

八所明神其南裏左祭気明神と
云る右ノ藏王の御事少
神社を社傳小天鋳命と云ハ味耜高彥根神小坐て
其説上百十注せ少○隱岐国周吉郡ハ郡少可
賀茂那備神社水祖神社の御事小就て説有上百
十一小云り○播磨国式外室神社と申して賀茂別
雷神の別社少上百五十四下六注五十九下九如く舊事
紀異本小味耜高彥根命針向室神社山と見え又異本
小針向国室戸神社淳穴宮天皇時味耜説高根大神出
現鎮座と有て其社傳小當社の御神日向国高千穂峯
二上嶽より洛北二葉山へ遷る世給ふ時此国小姑く

影向し給ふ此處名津多しと見行し便供奉の神等
不令せし斧鉞鎌の三刃を以て葛藤を伐掃ひ湊を南
子給ひし程無く名湊とい成り往來の船風波の
難を凌ぐて有く味耜高彥根神の南に給へる湊
の周防国 郡空津土佐国安藝郡空津と云ふ船
泊此神より由有く猶考ふ可く淡路国音波郷にも
空津と云有て播磨の 又神埼郡新次神社風土記にも多
空津小向へる地あり 馳里所以云邑日野者所遷須伎高日子根命神在於新
次神社造神宮於此野之時意保和知苜廻為院故名邑
日野と有て伊和大神の此国に神在し坐けり時味
耜高彥根神の神在し坐けり宮所より其委し

事八上 百八十 注せり又讚容郡の文小邑宝里整
柄川神日子命之齋柄合採此山故其山之川号曰齋柄
川と云事も有て此国に御事跡多し甚多在り
○備中国空屋郡足高神社和名杵子阿智郷見也又
後月郡足次山神社同杵足次 阿須 郷見也此二社共小
味耜高彥根神の渡り世給へり其事上 二百 注し
奉りし ○周防国吉敷郡仁壁神社山口小神在し坐
す俗小三宮と稱す社傳小表筒男中筒男底筒男命味
耜高彥根命下照姬命を祀ると云り ○阿波国美馬郡
鴨神社を別雷神と申せり小合せて勝浦郡勝占神社

正月十日
師津より空津
著述に見え

八后神天御魂日女命小御在坐べり考有て
上二百十注せり〇土佐国安藝郡空津神社和名抄
小室津牟呂郷有土佐日記小室津今昔物語小今昔土佐国空戸
津と云所有り少其所一草堂有り津寺と云ふ云
と云ふ新勅撰集小土佐国空戸と所して法性寺空
戸と云ふと我が佐めハ有為浪風寄せぬ日不無
と見えて甚古き地名あり又和名抄小和食和之郷有
ハ和食の轉多可く思え又右小注子播磨国空津の
例を思ふ小決く味耜高彥根神少く渡り世給ふ可
めり谷重遠〇式社考小室津村空津殿古城北有天

津社蓋此也略中康平三年金剛頂寺公文賢覺所記當
領地實檢帳作雨津社天正年中土左少将泰元親地檢
帳作天神皆此社也と云り但其中小按續日本紀称德
国安藝郡少領凡直伊賀麻呂日本紀曰天津彦根命
凡川内直之祖也古者郡領以譜代任之故郡中齋祖神
者多矣宣凡川内凡同姓而祀天津彦根命以称天津社
歟と云り然〇説〇如くある也凡直と凡川内直
とハ其出自異る〇けり〇長岡郡殖田神社右の考小
猶雨津中別義有あり〇在殖田村里人所傳及旧刻牛玉皆號高鴨大明神奈氏
地檢帳称賀茂社蓋與一宮祀神同神或曰殖田味耜之
義也略〇見えたる殖田ハ田を殖る事あり味耜と義
同ト〇ずと雖も其古老の所稱の如く信小高鴨神

小下御在_一坐多可_一上_{二百二}小注_一考合_一可_一
者あり_一又土佐國都佐坐神社大風土記_一土佐郡
郡家西去四里有土佐高賀茂大社其神名爲一言主尊
其祖未詳一説云大穴六道尊子味耜高彥根尊云_一
見えたる此御神の姿_一説_一四百九十九丁_一注_一
奉_一就_一見_一三代實録_一貞觀元年正月十七
日甲申奉_一授_一土佐國從五位下都佐坐神從五位上_一
所見_一百練抄_一元仁元年十月六日或人云土佐國
一宮去八月十八日以後至十二月大風大水等顛倒也
此日神殿以下不_一殘_一一字顛倒_一有_一神の御怒_一と云

こ_一了_一釋紀_一小今正月十五日立例百姓相聚行射礼於社
下五月下旬申南畝功竟之事_一〇月上旬貢封戸調物國
司必向自古成_一蹤_一有_一此_一小_一上_一古_一祀典_一の_一最_一重_一有_一
事知_一同郡朝倉神社風土記_一土佐郡有朝倉郷郷
中有社神名天津羽羽神天石帆別命今天石内別神子
也_一有_一即味耜高彥根神の本后天御梶日女命_一
渡_一世_一給_一入_一禊事_一右_{九丁}小注_一る_一如_一〇肥後國
玉名郡足野神社大同類聚方五十六_一小_一多_一滿_一柳_一藥_一肥_一后
國玉名郡令磐橋多麻呂上奏方元者阿邊鉏高日子根
神禊藥_一之_一事_一見_一由_一上_{二百三}見_一可_一
十_{四丁}

右安政六年歲次己未十一月丙寅朔始焉于時外寇之兆
內亂之機在于且夕心神煩勞而征存之俗吏安和親大戎
而相離民人於是國家之費弊極焉市不沽紙者數月
也閤筆求于東西而不得也天下之究迫可知耳義士結
黨雖誅賊而不行正議將來之大患如何存國忠者誰不歎
之乎嗚呼天哉翌庚申歲三月乙丑朔改元萬延元
年四月乙丑朔丙子夜叢檀本主人歲四十有九

日本書紀傳神代上卷脫稿之報賽獻物目六

天日隅宮

御鏡徑一尺

柘島種廣作

宗像瀛津宮

御鏡同上

作

同中津宮

御釵長一尺余

加藤綱俊作

同邊津宮

御釵同上

同

京都宗像神社

御鏡徑一尺

柘島種廣作

京師宗廟御幣以下同天日隅宮入

大和宗像神社御鏡徑八寸 柘島種廣作

御幣等同上

同 社 御釵長一尺 加藤綱俊作

同 御幣等同中津宮邊津宮

淡路國多賀宮 紐刀長六寸 同作以下同

同 御幣紫綾裡白麻御紐紫組以下同

同 產土八幡宮

大神大物主神社 同

大和大國魂神社 同

出雲國須佐神社 同

周防國玉祖神社 同

長門國住吉神社 同

攝津國生田神社 同

山城國向日神社 同

筑前國大宰府社 同

以上十口

大和國卷向神社 小刀 一口 同 作

廣瀨神社 同 一口

龍田神社 同 一口

出雲國命主神社 同 一口

御崎神社 同 一口

攝津國廣田神社 同 一口

長田神社 同 一口

長門國佐吉神社 同 一口

以上以小鷹紙包之

右萬延元年四月十四日於嚴壇奉齋之穗積重胤歲四十九母麗子八十八妻位子四十四男重兼十五

告文

高御座天津日繼止 玉敷平安乃大宮尔大座坐氏現御神止
神隨天下所知者 須掛 母 恐伎皇御孫尊乃大朝廷乃遠乃
守止 皇大御典乃大御學乃業子以此此仕奉留穗積朝臣重
胤伊真玉奈清伎明伎正伎直伎誠乃心乎天地尔明未申此
朝夕尔齋伎拜美仕奉留八百丹杵築大神宗像三前大神乎
始奉氏諸乃皇神等尔齋比大御神宝止天照也日月乃如久
光炫比麗志真澄乃大御鏡又神乃御稜威乃弥高尔弥廣尔
天地乃共往行徹良布都乃御靈乃大御劔止二種乃大御神
寶乎齋捧仕奉留事波皇神等乃尊伎高伎廣伎尊伎御恩

賴尔依此仕奉留日本書紀傳乃事尔真澄乃鏡明伎良氣微
字令得給比劔刀磨成留利心字弥非尔非給比神代乃上卷
字說言字令成給比猶下卷利次二乃腹稿毛此尔令成給留
御靈尔報奉利猶今利書續久可伎事尔障礙留事乃有波
天雲乃五百重乃遠尔神却尔却給比天雲乃下奈留乃八十
國尔起止利起利在利止有年禍事尔見聞觸留事令勿米給比
急年事無久情留事無久弥高尔弥廣尔務結利令仕奉給止
此乃神宝字獻利訖白波其甲戎此仕奉留皇大御學乃業波
毛天地乃初起利世中乃立定留神事毛天照坐皇太御神
乃御子乃繼二天津日繼止天津高御座尔大座坐尔天神乃

天津御子隨毛天尔坐神乃事依志授給留御命乃任尔食國
天下字撫給比治給比來留業止那大座坐尔臣連伴造國造
百八十伴字召給比順用給比遠皇祖乃神代余以降食國天
下尔敷給比行給留國法止立給比定給留大御趣尔依尔天
下百姓波平久安久治留物止思定尔那有那留中音余天下
乃大御政毛波志物部乃將軍乃執中須事止那食國乃大御貢
波武士乃取入流事止成尔掛麻久甚毛可畏伎皇大御稜威
毛那衰肉大座坐尔天神御子字會釋比奉留事波恰毛淳浪人
尔物良与尔飢止寒尔令凌尔唯命尔令續尔置我如久為尔
外表波天下諸人乃思布所尔憚尔君臣乃狀尔形乃如尔行

布雖毛內二乃心波天下字二五志相持都事乃如久上字檢
未下字欺毛已家太持有良宜止遠皇祖乃神乃御捷不違比
奉利傲高流中毛不須也凶目鄙伎戎王乃封字奉皇大御
國字穢志奉流左有都留天下慶長止云初大御世利征夷府
字東國尔置給余流事乃狀毛改利甚愛伎大御世止那立復
利人心毛元和伎寬永止次來流御世々々乃中尔正朔字奉
留官位字賜止此二事乃美皇御孫尊乃大御業有食國天
下乃大御政止此大御力尔及給波大座坐來留向尔近頃四
方乃戎夷乃襲來利危伎事且夕尔迫毛有尔武士乃人等伊
皇御楯止為毛伐掃比國乃難字可救伎事字志思波將來乃

大患字忘礼唯一日毛安久在年事字務毛口波交易波國字
富志兵字强久為留術止言清久言成須雖毛心波拙考久女
志久有毛夷字征止云布其職字廢良乍毛其罪字掩藏左
惡巧字構閑掛毛久恐伎天神御子乃大御命許給比大座坐
止匡承云此天下乃人共尔令兼引止先尔波林某字都尔上毛世
事謀志加不成毛奈有初礼佐倉某字再上毛世百敷乃大宮人字
夷乃群尔引入毛天神御子字蠻夷乃酋長乃列尔押下志奉
止謀留事轉有止雖毛天地尔照臨美坐須大御心毛那真澄乃
鏡明尔加照足波大座坐毛大御命良麻諭志教向詔給閑良天
神乃事依志授奉給流任尔常世乃戎乃國二字御奴國止召

給比日本府予彼_尔置_白馭給_流事跡_波聞食_志來_礼留_此皇
大御國乃地_手割_白夷地_止為_白夷乃無_礼伎言_尔從_此和親
志_事未_闻受_皇朕御世_尔當_利華夷_手乱_利彼_犬戎_止等_同
尔成_祭事_波皇祖天神乃大御心_尔違_奉利_遠皇祖乃大御_旋
尔昔_奉流_業止_掛麻_久甚_毛忌_久可_畏初_礼夷_手征_止依_志
給_比來_留職_乃任_尔海_行水_漬屍_止仕_奉礼_劍乃大御_利心
以_尔泰_伎大御_命予下_給爾_留近_江乃海_八十乃湊_尔橫_去布
蟹_戎行_如須_頑多_夫礼_橫樣_尔出_來爾_留果_多留_鯖江_某予下_風
尔立_世遺_志驚_志加_奉礼_良大_君予島_尔廢_志奉_留自_古無_例伎
政_波尔非_受大御_位予下_志奉_留時_乃勢_尔任_世奉_止迫_利奉_留

雖_毛國中乃天_在乃如_久天地乃底_際乃内_尔立_貫伎_大座_坐
須_大御_心乃勤_加給_布爾_非利_初雲_上乃高_伎公_等乃位_予剥
伎_大宮_人能_忠流_限汝_獄舍_尔繫_伎國_之乃宰_等尔武_久勇_有
尔因_尔退_初尔大_御命_尔昔_違比_天下_百姓_乃望_予失_比犬
戎_予近_初親_尔事_兄弟_余利_厚久_帝都_予園_美害_奉流_狀波_仇
敵_乃如_伎時_世尔本_著尔奸_夷賊_高等_大尔所_予得_留任_尔天
地_乃神_祇乃皇_御孫_尊乃大_御食_國止_豐饒_尔令_在給_幣天津
日_繼乃瑞_穗乃貢_予犬_戎尔致_志目_乃耀_久金_銀種_之乃珍_宝
乃數_予盡_尔彼_尔渡_志已_戎尔二_惡心_邪意_予以_尔弥_益尔
枉_志伎_事予相_競比_戎尔僅_尔一_年二_年乃向_尔國_土人_民乃

貧志成礼雖毛一人尔既留留事奈毛無礼初天地乃初判餘以
降世絕毛見志南毛不著流大枉事尔常夜行如須思予不
為流又無久那有那礼天社国社乃皇神号也示给尔良天地
乃災異頻尔發利風雨時尔順受暑寒序尔失布佐有尔井内
乃蛙波三月乃雪尔倒礼注海乃鯖波頃向癩病止為尔惱比
居利返夫乃畏忽尔來利天神乃御罰甚如此速尔奈利雖毛臭
伎物尔蓋須云事乃如久正尔伎論比世尔行受尔邪尔伎說共競
發利君臣乃大義尔末世尔彰礼内外乃各分今尔不立毛那有尔
弥尔益尔皇大御国尔危久成利皇大朝廷尔微尔成尔某甲
我此仕奉流皇大御學乃音尔合尔是快止尔思尔布事其祥止尔

感留事波志絕尔世尔無久奈有那留天地止洪尔終给爾良
皇袖等乃御上尔尔唯暫時乃事止見直志南直志和尔給尔
大座坐尔治给波時有尔治賜布可久提給尔布良尔百年尔限
止為流我等尔短尔伎心尔憤久尔待尔遠尔乃有尔春秋乃彩色
毛樂志加唯天照太御神乃御子乃繼尔二天津日繼尔止次來尔流
天袖御子乃大御稜威乃天地乃向尔弥給尔利大座坐尔挂麻
毛恐尔皇御孫尊乃大御趣乃任尔武臣乃傲尔止尔外夷乃
侮尔防给尔天下乃八十国尔紆御尔大座坐尔尔紆乃
五百津集尔白玉尔貫連留事乃如久令大座坐尔奉给尔天下
尔照臨美大座坐尔事尔此真澄乃鏡乃如久照尔足尔令大座

坐奉給比皇大朝廷尔背奉利違奉利禎多夫礼枉留人等
此捧仕奉流神劔子以此言向和乎給比皇御孫尊字茂御
世乃足乃御世尔幸奉給布驗字唯今乃闻尔示給比大座坐
白猶弥益尔仕奉良武日本書記傳尔著述志仕奉流事乃有哉
中尔愛伎事乃美伎事止天下乃人共乃願思布心足尔治賜
此此仕奉流皇大御學乃驗尔依尔掛麻久恐伎現御神止天
下所知食項皇御孫尊乃大御世尔于長乃大御世上堅石尔
常石尔伊波比奉利茂乃大御世尔幸奉利天下穩志公民令
富策尔令仕奉給南祈白須事乃由尔平久安天香山乃天
乃真男寔乃耳振立此所闻食止今日乃生日乃足日乃朝日

影咲白榮流由天地乃宜伎時尔妻子親族尔率侍比手掌毛摎
亮尔拍上乍毛天地尔此聲乃動伎到尔皇神等乃南食志感
祈可賜物曾思定尔惠良尔尔悦比榮尔德積朝臣重胤伊
八度額突尔八度拜比恐美恐美白給尔申須



